

登録コード	HM249100	開講年度	2026			
授業題目	医療生命科学演習A				担当教員	矢崎 正英 他
英文授業名	Practice in Health and Medical Sciences A				副担当	安尾 将法・松本 竹久
単位数	2	講義期間/後期	曜日・時限	火曜・5時限	火曜・6時限	対象学生
講義室		授業形態	演習	備考	選択科目	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄			(授業の達成目標)		
	2026HM保健学分野初, 2025HM保健学分野初, 2024HM保健学分野初, 2023HM保健学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能			⇄	病原微生物の生物学的研究方法喫煙による健康被害を含む呼吸器疾患の病態と治療、難治性神経疾患と異常蛋白沈着、アミロイドーシスの発症機序と新規診断法についての研究ができるようになる。	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力			⇄	病原微生物の生物学的研究方法喫煙による健康被害を含む呼吸器疾患の病態と治療、難治性神経疾患と異常蛋白沈着、アミロイドーシスの発症機序と新規診断法についての研究ができるようになる。	
(2)詳細 /Detailed information	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力					
				⇄	病原微生物の生物学的研究方法喫煙による健康被害を含む呼吸器疾患の病態と治療、難治性神経疾患と異常蛋白沈着、アミロイドーシスの発症機序と新規診断法についての研究ができるようになる。	
(3)授業の概要 /Overview of course	この授業は3名の先生のオムニバスでおこなう。病原微生物の生物学的研究方法、喫煙による健康被害を含む呼吸器疾患の病態と治療、難治性神経疾患と異常蛋白沈着、アミロイドーシスの発症機序と新規診断法についてセミナー形式で授業を進め、この分野における研究能力を養う。					
(4)授業計画 /Course plan	感染症の最近の動向、病原微生物の生物学的研究方法、動物実験モデルの応用、生体の感染防御機構や生理学的機能とその破綻による病気の発症について（松本）、呼吸器疾患の診断における臨床検査の実際、肺気腫合併肺線維症、喘息合併COPDの病態といった特殊病態とその特徴、喫煙による健康被害、慢性咳嗽と喘鳴の鑑別について（安尾）、難治性神経疾患、神経疾患と異常蛋白沈着、アミロイドーシスの発症機序と新規診断法について（矢崎）原著論文を教材としてセミナーをおこなう。自由な討論と最新の専門知識の解説によって専門知識を深化させる。到達目標は各種疾患の病態の基本的な事項およびその機序について理解し説明できる。疾患および病態の診断および病態解明に必要な臨床検査の必要性と意義が理解でき、さらに進めるべき検査について説明することができる。 本授業は担当教員の医療生命科学における医師および臨床検査技師としての実務経験を生かし講義をおこなう。					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	第1回（9月29日）：慢性咳嗽と喘鳴に関する鑑別診断（安尾将法） 第2回（10月6日）：呼吸器疾患の診断と臨床検査の実際（安尾将法） 第3回（10月13日）：気腫合併肺線維症、喘息合併COPDの病態とその特徴（安尾将法） 第4回（10月20日）：喫煙による健康被害と喫煙と関連する呼吸器疾患（安尾将法） 第5回（10月27日）：まとめ（安尾将法） 第6回（11月10日）：国内感染症の最近の動向（松本竹久） 第7回（11月17日）：薬剤耐性菌と院内感染（松本竹久） 第8回（11月24日）：院内感染対策とチーム医療（松本竹久） 第9回（12月1日）：感染症の症例と臨床微生物学的視点（松本竹久） 第10回（12月8日）：まとめ（松本竹久） 第11回（12月15日）：難治性神経疾患I（矢崎正英） 第12回（12月22日）：神経疾患と異常蛋白沈着（矢崎正英） 第13回（1月5日）：アミロイドーシスの発症機序と新規診断法（矢崎正英） 第14回（1月12日）：まとめ（矢崎正英） 第15回（1月19日）：全体の総括（矢崎正英）					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	成績評価は3人の先生の最終セミナーの後に、セミナーでの発表内容につき以下の基準で総合的に評価をおこなう。セミナーでの発表内容につき、(1) 課題の設定が適切であり、(2) その課題や論文の背景を説明出来ており、(3) その論文にどのような課題があるのかを指摘出来ており、(4) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握出来ており、(5) その上で自分の見解を提示できており、教員を感動させるレベルにあれば「卓越している（秀）」と評価する。また(1)～(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」、4項目まで出来ていれば「やや上にある（良）」、3項目まで出来ていれば「水準にある（可）」と評価する。					
	以上の結果を総合して、成績評価を行う。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	1.事前学習について 課題となる論文を提示し、内容を理解し、当日発表させる。また、事前にe-Alpsにスライド原稿を載せます。 2.事後学習について 毎回、授業の始めに、前回の授業のポイントについて質問をしますので、復習をして授業に臨んでください。					
	本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（4時間×15回）＋ 自己学習時間30時間（2時間×15回）＝ 90時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。					

(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。 個別の相談は、事前の連絡によって随時、対応する。 (矢崎) e-mail ; mayazaki@shinshu-u.ac.jp (安尾) e-mail ; yasumasa@shinshu-u.ac.jp (松本) e-mail ; tmatsumoto@shinshu-u.ac.jp
(8)授業の形式 /Course format	病態，検査の進め方と考え方，検査方法等を討論する。また、web会議システムによる遠隔授業を行う場合は、事前にアクセスID/パスワードを通知します。